

地元畜産物のブランド化に向けて

～(有)のぼりべつ酪農館設立～

1月15日(木)、(有)のぼりべつ酪農館の設立総会が中央町のホテルで開かれ、農畜産物の加工製造を通じた地場産品の消費拡大と農業振興のための本格的な取り組みがスタートしました。

同社は、『札内高原館』を拠点に市の農業振興と農業所得の向上を目指して特産品の開発に取り組んできた登別市農業振興研究会が法人化を進めてきたものです。資本金は500万円、同研究会と室蘭・登別酪農振興協議会の会員など個人18人と法人4社が出資し、伊達市内で乳製品・肉製品の製造・販売などを営む(有)牧家から農畜産物の加工技術などノウハウ提供の協力を受けます。

同社は、札内高原館を拠点にアイスクリームの製造から手がけ、加工乳、飲用乳の製造や市内の学校給食の牛乳製造も視野に入れているほか、将来的には観光農場の経営やレストランでの『登別ブランド』の畜産物を使った料理を提供する計画などもあり、地元畜産物のブランド化に向けたPRと消費拡大に大きな期待が寄せられています。



(有)のぼりべつ酪農館設立祝賀会(設立総会后開催)



札内高原館



百人一首で楽しく交流

～第21回登子連かるた大会～

1月18日(日)、市民会館で『第21回登子連かるた大会』(登別市子ども会育成連絡協議会主催)が開かれました。この大会は、伝統的な遊戯の百人一首を通し、子どもたちに仲間意識を深めてもらおうと、毎年1月に開催されています。

今年の大会には、小学生9チーム28人と中学生2チーム6人が参加。子どもたちは読み手の声に神経を集中させながら、真剣な眼差しで木札を追っていました。

かつては30チームを超える参加があったこの大会ですが、少子化や遊びの変化などから、年々参加者が減少。伝統的な遊戯を伝えていく難しさもうかがわれます。

すべての人びとの幸せを願い続けて40年

～日本赤十字社登別市地区赤十字奉仕団創立40周年記念式典～

1月26日(月)、市民会館で『日本赤十字社登別市地区赤十字奉仕団創立40周年記念式典』が開かれ、団員など約100人が出席しました。

奉仕団は、昭和36年に市内を襲った大水害の際、救護活動を行った婦人会の有志が昭和38年に結成。昭和58年の集中豪雨や平成12年の有珠山噴火では避難住民の炊き出しを行うなど、現在は片倉・登別・富浦の3分団106人の団員が災害時の救護・救援活動や地域奉仕活動などを続けています。

講演に続いて記念式典に移り、これまで奉仕団の活動に貢献した団員の表彰が行われた後、吹越愛子奉仕団委員長が「市民ニーズの多様化や高齢化が進む中、一人暮らしのお年寄りに対する奉仕活動なども求められている。新しい分野への取り組みが必要」とあいさつし、参加した団員は今後の活動への意欲を新たにしていました。



炊き出し訓練(平成15年度登別市総合防災訓練)